

学校支援を積極的に進める

～メディアの使い方、自分でバランスをとる～

逢妻中学校 PTA

1 学区及び学校の概要

本校は豊田市の西部に位置し、自動車の町としてトヨタの工場に囲まれた環境にあり、全生徒数 782 人、支援学級を含め 28 学級と市内でも大規模校となっており、創設 45 年目を迎え歴史と伝統を重んじ、受け継ぎながら、学校・保護者・地域の連携を密にし、学校スローガン「誇れる逢妻」活力・規律・感動をもとに新しい事にも積極的に取り組む盛んな中学校です。

2 研究のねらい

近年携帯電話やスマートフォンなどメディアの使い方が話題となっています。学校のタブレット導入や生徒の携帯電話の使用についてわたくしたちも一緒に使い方を考えていく機会として、デジタルシテイズンシップについての学習を学校と協力して行うこととした。

保護者の子どもへの関与の程度および生徒たちの情報端末の使用時間・使用方法を把握することにより、今後の生徒たちの健全なメディア使用について考えていきたいと思えます

このことから、育友会の取り組みとしてまずは学校で担任による各学級でのメディア講座「メディアの使い方、自分でバランスをとるには？」の開催を行っていただき、その後各家庭での親子による動画視聴および話し合いを行ったのち保護者アンケートの実施を行う。

3 研究の仮説

家庭内では情報端末を持たせる時は使用時間等の約束事を決めている家庭が大半と思われる。

しかしながら渡した後は本人任せの家庭がほとんどである考えるので、メディア講座開催後に親子で話し合いながら使用方法の再確認を行うことにより適切な使用が出来ていくと推測されることから取り組むことにした。

3 研究の方法

(1) 活動内容の設定と取り組み

本来であれば P T A 役員も同席して体育館等でメディア講座を実施したかったがコロナを考慮して各学級での担任による開催とした。

活動内容としては、タブレットを活用しての動画視聴およびチラシを活用しての親子対話。

・動画視聴

Net モラル A-37「アクセス許可」の視聴

・スマホルールの「豊田の 4 か条」チラシの活用

例年は夏休み前の個別懇談時に手渡していたが今回は親子で見る機会を設ける。今年からデジタル配信になってしまったが紙チラシの方が効果的な話し合いができると考えて使用。

(2) 研究方法について

事業完了後に各家庭にアンケートの回答を依頼し、子供たちの情報端末の使用状況の把握を行う。

4 研究の実践

6月後半から各学級でメディア講座「メディアの使い方、自分でバランスをとる」を実施。その後各家庭にて親子による動画の視聴および話し合いの場を設けて親子で決めた決めごとをプリントに書き込んで学校に提出、親御さんにはPTAからのアンケート依頼を行いました。

5 研究の考察

アンケートをとった結果、173家庭からの回答があり、下記のような集計結果となった。以下各項目について説明する。

(1) 「スマホ・タブレットの所持」について

- フィルタリング有・・・59.5%
- フィルタリング無・・・30.1%
- 所持していない・・・10.4%

・半数以上がフィルタリング有で所持の回答



(2) 「使用時間の約束」について

- 約束がある・・・75.7%
- 約束がない・・・24.3%

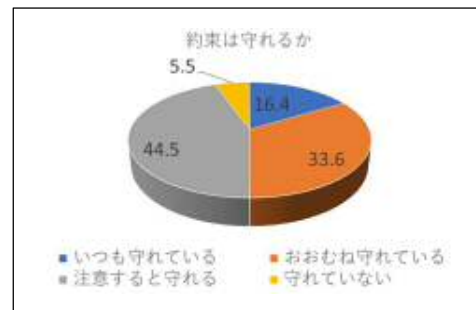
・大半が「約束がある」と回答
・研究仮説と合致



(3) 「約束が守られているか」について

- いつも守られている・・・16.4%
- おおむね守られている・・・33.6%
- 注意すると守れる・・・44.5%
- 守れていない・・・5.5%

・守られている、おおむね守られているが半数である
・半数の家庭で注意が必要な状況である



6 成果と今後の課題

今回の研究において、中学生になると9割の生徒がスマホを所持していることが判明した。しかしながら親による監督が不十分なため規則正しく使用されていないのが実情のようだ。アンケートの記述欄には75件の回答があり、多くの家庭で使わせ方に悩み等を持っていることが判明した。

このことを踏まえ、今後も学校側と協力しつつ、家庭内でのスマホ使用の取り決めの習慣づけを図る必要性が見えて来たといえる結果になりました。

今後もメディア講座を継続することにより、犯罪に巻き込まれることへの未然防止、約束を守れる人間形成、親子の会話の機会作りに努力していきたい。また、地域の小学校とも連携して5年6年の高学年時から入門編としてのメディア講座の開催を提案していきたい。

今回このような活動を行ったことで普段親子での会話が少ない家庭では会話をする機会が持てたことは良かったと考える。